

## 第1回狛江市基本計画策定分科会（第1分科会）会議録

- 1 日 時 令和6年3月26日（火）午後6時59分～午後8時57分
- 2 場 所 第一委員会室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁                      副委員長 強瀬 理一  
副委員長 酒井 淳子                      副委員長 五十嵐 太一  
委 員 大村 充男                      委 員 繁平 光伯  
委 員 吉野 琢也                      委 員 高橋 良典  
委 員 片岡 晋一  
事務局 富田政策室長                      中村企画調整担当主査  
大久保企画調整担当主事

### 4 欠席者

- 5 議 題
1. 委員長挨拶
  2. 委嘱状の交付
  3. 委員自己紹介
  4. 第4次基本構想・後期基本計画の策定について
  5. 【まちの姿1 人権が尊重され、市民が主役となるまち】  
現状と課題について
  6. その他

### 6 会議概要

#### 議題1 委員長挨拶

－委員長による挨拶－

#### 議題2 委嘱状の交付

－各委員に委嘱状の交付－

#### 議題3 委員自己紹介

－委員による自己紹介－

#### 議題4 第4次基本構想・後期基本計画の策定について

－事務局より資料の説明－

##### 【委員】

昼間人口の割合について、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響でテレワークが積極的に開始された時期だが、直近にデータはあるか。

##### 【事務局】

5年毎に行っている国勢調査を基にしているため、資料の数字が最新である。令和2年

の数字については特殊事情であると考えていただきたい。

【委員】

市税について、法人市民税が少ないという説明があったが、近年増加している個人事業主を捉えることはできないか。法人のみではなく、新規で始める個人についても踏まえることができると考えた。

【事務局】

現状としては大きな企業は市外に流出している状況である。

【委員】

人口以外のデータは信頼性が高いということで良いか。

【事務局】

将来推計については、新型コロナウイルス感染症の影響以前の伸び率を反映していると思われるため、不確実であるが、その他の資料については実績に基づいている資料となっている。

議題5 【まちの姿1 人権が尊重され、市民が主役となるまち】現状と課題について

－事務局より資料の説明－

【委員】

平和について、過去の戦争による悲惨さと表現があるが、あまり露出を増やしすぎると、市が暗いムードになってしまう。不安や恐怖をあおるのではなく、プラスの方向性で平和をイメージできるとよい。

【委員】

プラスの方向性としては、今が平和であり、それを充実させるという観点では well-being の視点を取り入れたり、それを維持する、という考え方はどうか。戦争体験をリアルに語れる方は少なくなっていることについては、アーカイブ等で残していく必要があるのでは。

【委員】

平和が長年常態化している日本では、平和である事の有り難さが実感しづらい環境となっている。一方、海外では紛争が絶え間なく起こっているのが現実。学校教育等の機会を通じ、紛争地域に身をおいた方の生々しい実体験を聴講する事で、平和な社会を維持する事の大切さを再認識するきっかけになるのでは。

【委員】

現在の平和を維持するためにどうしたらよいか、平和な状況はくずれてしまうものである、という認識や現在に視点を持ってきた方がよい。

【委員】

狛江は昔、航空計器から JUKI までは軍需産業があったと聞いたので、狛江の過去として残しておけるかもしれない。

【委員長】

現在の記載は過去にフォーカスしているので、現代の状況についての表現も取り入れていただきたい。次の男女協働参画についてはいかがか。

**【委員】**

ジェンダーギャップ指数について、性的なもの以外にもCQ（カルチャーインテリジェンス）が大事であり、育ってきた環境で固定的なものの見方を身に付けてしまい、それ以外のものを敵対視してしまうことがある。そのように知識を身に付けながら、相手のものの見方や感じ方を学んでいく必要があると思う。男女にこだわらずに広く考えてもよいのでは。

**【委員】**

性別に対する意識については、LGBTQについても触れられるとよい。マイノリティとしての女性、となっていたが、男性の育児休業については実際取得が進まない現状がある。社会や企業の意識がまだ追いついていない、育児子育て家事への参加を考えている男性についても記載があるとよいのでは。

**【委員】**

市内でも共働き家庭が多くなっている。狛江で働く、市内で完結できる環境づくりにより、アプローチしやすいのでは。

**【委員】**

保育環境がベースになっている。子どもが1～2歳となり、職場復帰直後の体制が整っていることが一番重要である。

**【委員】**

人権について、福祉分野では、障がいのある方を社会的に守るという意識があるように感じている。社会的に守るというよりも、活躍できるという一歩進んだ表現になれば良いと思う。

**【委員長】**

多文化共生はいかがか。

**【委員】**

外国人の意見をひろうことが重要だが、狛江市は近隣自治体と比較して、遅れていると感じている。狛江では交流の場を提供するにとどまっているが、他市では相談窓口が設置されていて、困りごとの相談ができる環境が整備されている。

**【事務局】**

外国人向け調査や外国人との座談会も今年度実施したところである。座談会では日常生活で困っていることは比較的少なく、概ね住みやすいという意見が多かったが、市からの通知や税金関係の通知では日本語が細かく記載されていることや、市内在住の日本人と同様にゴミ袋の制度がわかりにくい等が挙げられた。

**【委員】**

行政のみではなく、銀行やバスや電車等のインフラも含めた市内全体で多言語対応する等が考えられるのではないか。

**【委員】**

こまえくぼについて、具体的にどのような活動をしているか分かりにくいと思うので、説明いただきたい。

**【事務局】**

市民活動支援センターは小田急線高架下にあったが、市民センター改修に併せて市役所敷地内に移設予定である。団体設立に向けた支援や団体ボランティアの紹介やコーディネーター、また、会議室としてフリースペースの貸出や機材の貸出しを行っていた。ボランティアの情報発信等のために、年に10回程、チラシの配布も行っており、社会福祉協議会に委託している。市民アンケート等でもセンターの存在を知らないという意見が多かったため、認知度向上のためにLINEやSNSの発信やイベント等を開催している。

**【委員】**

ボランティアの方の情報について、データベース化されていないことから、会員全員に情報発信はできないと言われた。地域人財の把握・活用がこれからは大事になっていくと思う。現状では相談に来た人への対応はやっているが、全面的に広がっていくような状況ではないように思う。

**【事務局】**

社会福祉協議会に委託していることもあり、少し福祉的な分野に偏っているかもしれない。アンケート等でも市民活動をやってみたいという人は多いため、人材バンクやプッシュ型でのお知らせ等が出来れば良いと思うが、そこまでの取り組みには至っていない。

**【委員】**

ボランティア活動に関心のあるアクティブシニアが多いのではないかと考える。市民活動の最初の入口、きっかけは市民活動センターでないかもしれない。公民館等のプログラム等から入って、徐々に市民活動への参加につながるという流れも考えられるのではないかと。分野横断的に考えることで、他の事業との相乗効果も生まれると思う。

**【委員】**

先日、総合体育館でのイベントに家族連れがたくさん参加していた。そのような場でのパネル展示等を行うと、多くの方の目に入るのではないかと。

**【委員長】**

地域のキーマンを把握し、活用すること、市民活動センターに来なくても市民活動をやりたい人がある、子ども関連のイベントと関連させる等、様々な機会を通じてセンター周知等を行うことで敷居を低くするという事がポイントになるかと思う。次の市民参加・市民協働についてはいかがか。

**【委員】**

情報の受け手について、体系整理はしているのか。

**【事務局】**

LINEでは興味のある分野の登録ができるため、登録している方にはその分野に関連し

たお知らせをする等の取組を開始したところである。

【委員】

世代や家族構成等の属性に応じて、周知ができるとよい。情報の受け手をセグメント化、ターゲット化した上で情報発信することで、効果的効率的な情報発信につながると思う。

【委員】

SNSの活用について、推移等はとっているのか。

【事務局】

ワクチン予約に活用したときに、登録者が急増した。

【委員】

全員ではないが、SNSからの情報を得ている人は多いと思う。自分の興味のない情報は切られてしまうが、興味のある分野については関連情報を収集することが多いのではないか。市外の人も興味を持つような情報を発信したり、インフルエンサーによる発信等も含め、傾向管理していくことが必要ではないか。うまくSNSで情報発信している自治体では、インバウンドでの人気が出たところもあるので、検討いただきたい。

【事務局】

人口は8万2,000人程度だが、狛江市の公式LINEアカウント登録者は現在5万4,000人程度である。

【委員】

交流人口を考えると、市民向けだけでなく、様々な情報を提供するのが良いと思う。

【委員】

ワクチン予約で登録した市民が多いのか。

【事務局】

市民が多いと考えられ、内容も市民向けの情報発信が多い。

【委員】

1つの情報を様々なSNS媒体で発信する必要がある。広報こまえて紙で情報を入手することは、探している情報以外の情報についても入ってくるというメリットがある。

【委員】

実際の知り合いからの情報はやはり強力であるため、発信者同士の繋がりについても意識できるとよいのではないか。

【委員長】

効率的なだけでなく効果的な情報発信も重要である。最終的には情報は口コミで伝わっていくため、SNSの活用については最先端の学生でも使い方を試行錯誤しているような状態であるため、効果的な活用については引き続き検討していかなければならないのでは。

全体を通して、意見があればお願いします。

【委員】

市民委員の募集について、どのように進めていくかが重要であると思う。反映されている

気がしないという意見があったが、まちをよりよくしたいという考えは市も市民も同じであるので、対等な立場で参加できるとよい。市民委員になってくれる人はまちに興味があるということであるため、市民委員をやるメリットを明らかにし、時間帯や意見の取り方等工夫してもらうことで、市民委員のモチベーションアップにつながるのではないか。

**【委員】**

60歳代が60%近くを占めているという表現だが、60歳代が多いことが悪いように感じる。

**【事務局】**

表現について再考する。

**【委員長】**

追加の意見等があれば事務局までご連絡いただきたい。

議題 6 その他

**【事務局】**

今回検討いただいた内容は取りまとめ、5月分科会にて再度議論いただきたい。今後の会議の日程については、4月19日、5月24日を予定している。

**【委員長】**

その他特に意見等なければ、第1回狛江市基本計画策定分科会を終了とする。